

観測開発研究センター (Research Center for Geophysical Observation and Instrumentation)

観測開発基盤センター

背景・課題

- ① 地震研究所では、平成22年の改組及び平成24年の新設により現在の4研究部門・8 附属研究施設（5プロジェクトセンター、3サイエンスマネージメントセンター）体制となった。
- ② マネージメントセンターに分類される「観測開発基盤センター」では、観測研究支援、機器の管理等のマネージメントと平行して、地震火山観測研究及び先端的な地震火山観測機器や分析装置等の開発研究が進められてきた。
- ③ 研究とマネージメントは不可分であり、プロジェクトセンターとマネージメントセンターの区分が不明確な状況が生まれていた。

(改組) 観測開発研究センター

改組の目的

- 附属研究施設を研究センターに一元化。センターの役割（マネージメントのみでなく、研究も実施すること）を明確化するために、「観測開発基盤センター」を「観測開発研究センター」に名称変更し、観測研究、技術開発研究・マネージメントを一体的に推進する
- 先端的な地震火山観測研究・技術開発研究を一体的に実施。地震火山噴火の予測と災害軽減に向けた、地震火山科学の新たな研究の展開を図る。
 - 上記と併せて、地震火山観測機器等の維持・管理・活用等の研究支援及び観測機器・技術の開発支援による高度な研究活動の推進を図る。

教育研究内容

- 地震火山観測研究と一体化した先端的観測機器・解析手法の技術開発研究
- 以下の観測研究支援及び管理等のマネージメント
 - ・ 研究所内で共有または共同利用に供される観測機器及び分析装置の維持・管理・活用
 - ・ 地震火山研究に用いられる観測網及び観測所の維持・管理
 - ・ 観測機器や技術の開発支援、技術情報の集約、機材の共有
- 上記の活動を通じた若手研究者・技術職員の育成

研究とマネージメントを一体的に進めることにより、観測・技術開発研究成果の地震火山観測研究への適用をシームレスにつなぐ

UTokyo Compassとの関連

1-3 卓越した学知の構築, 1-4 産学協創による価値創造

地震火山の先端的観測・解析技術開発による卓越した学知の構築、そして産学協創による先端的観測機器開発を通じた新たな価値創造を図る

2-4 大学院教育, 2-5 若手研究者の育成

大学院から観測機器・技術開発の支援現場での学びにおいて、観測技術を有する若手研究者を育成する

2-6 高度な専門性と創造性を有する職員の育成

センター教員との先端的な観測及び観測機器・分析装置の開発研究を通じて、高度な専門性と創造性を有する技術職員を育成する

期待される成果

- 先端的な地震火山観測研究の促進と地球物理課題の解決に向け、研究と一体化したマネージメントを行うことで、以下が期待される
 - ・ 研究者のニーズやアイデアに基づく先端的な観測機器等を内製する機能
 - ・ 解析手法の高度化
 - ・ 高度な専門性・創造性を有する若手研究者・技術職員の育成
- 地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点として、本センターが管理し、他大学や機関に供する観測機器等の効率的な運用が期待される